

芸術身体教育コース 美術教育系

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)	
小学校一種 + 中学校二種(美術)	または
中学校一種(美術) + 小学校二種	
学生が近年取得したその他の免許	
高等学校一種(美術)	など

見て、触って、感じながら 美術を通して教育を探究

美術教育系では、「美術科教育」「絵画」「彫刻」「デザイン」「工芸」「美術理論・美術史」の科目が開講され、小学校の教員免許・中学校(美術)・高等学校(美術)の教員免許を取得することができます。

実際に見て、触って、感じながら世界を発見していくことは、私たちが生きていく上で大切なことです。また、さまざまな美術作品や表現に出会うことで、多様な文化や思想に触れることができます。美術と美術教育を学んで、子どもが成長するなかで自ら表現することの意義について、考えを深めていきましょう。

美術を通して、教育について広く深く学び、考え、社会や地域でさまざまな環境にいる子どもたちに寄り添う力を養っていきます。



●カリキュラム・特徴ある授業や取り組み●

美術教育系では、1年次より専門科目群から授業を選択して履修し、絵画や彫刻、デザインや工芸といったさまざまな表現について学びます。そして、子どもたちの成長のなかでの美術の意義について考え、図画工作科や美術科の教員としての資質・能力を身につけます。3年次には、教育実習を体験します。最終学年では、大学生活の集大成として美術教育に関する卒業論文を作成し、卒業論文発表会で口頭発表を行います。

中等美術科教育法Ⅰ～Ⅳ

中学校美術科と高等学校芸術科(美術)(=中等美術科)の授業をするために必要なことを学びます。まずは授業の基本的な考え方を講義で学びます。ただし、授業のやり方に正解はありません。ですから、さらに自分で美術の授業を構想し、模擬授業を試み、課題を発見して解決することで学びを深めていきます。



●主な授業科目

1年次	2年次	3年次	4年次
初等図画工作科教育学 図画工作科内容論 学部入門ゼミ	中等美術科教育法Ⅰ・Ⅱ 造形計画演習 彫塑 基礎構成 木材工芸 美術理論	中等美術科教育法Ⅲ 絵画表現 実材彫刻 視覚伝達デザイン 陶芸基礎演習 美術史Ⅰ	中等美術科教育法Ⅳ 立体造形 環境デザイン ガラス工芸 美術史Ⅱ 卒業論文

卒業論文発表会(卒業制作展)

美術教育系では他の系と同様に卒業論文を課しています。美術科教育、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史のいずれかの分野を選び、それぞれを専門とする教員の指導を受けます。その成果を卒業論文発表会にて公開し、実技を専攻する学生は卒業論文に加え卒業制作展での作品発表も行います。



MESSAGE

学生メッセージ

3年生 A. S. さん(桐蔭学園高校出身)

映像で生み出す新しい世界

2年の授業で映像制作を経験しました。自分の表現したいものに合わせて試行錯誤しながら、映像の構成や編集に工夫を凝らしました。授業内での自由度が高く、アイデアを柔軟に形にできる環境だったため、思う存分集中できました。映像を通じて自分の世界観を伝える面白さを実感し、表現の幅を広げる貴重な機会となりました。



教員メッセージ

平野千枝子 先生(専門分野: 20世紀の美術)

あなたの生活のなかに、美術はありますか？ みんなの豊かな人生を探しましょう。

戦争によって世の中が大きく変わったあと、芸術家たちも、「美術」ってどんな意味があったのかと、深く考え直しました。私は美術の歴史のなかでも、とりわけそうした時代を研究しています。自然環境やメディア環境が大きく変化する今、美術を通じて世界をていねいに感じとり、伝えることができたらいいですね。



研究紹介①

井坂健一郎

～研究テーマ～
アートとテクノロジーの
融合による絵画・インス
タレーションの表現研究



井坂 健一郎 Isaka Kenichiro
東京藝術大学美術学部(油画)、筑波大学大学院修士課程(美術)及び博士課程(芸術学)に学び、国内外において作品発表を展開している。本学部では主に絵画の実技と理論の授業を担当している。

個性を生かした絵画表現とその指導法の探求

私は、絵画、写真、インスタレーション、ミクストメディアなどの作品制作を中心に、学生、一般市民、行政、企業等とのアートプロジェクトも行なっています。近年は、陽極酸化被膜を施したチタンプレートの上に樹脂系の絵具で描く技法で表現しています。

教育学部の絵画の専門科目では、絵画の表現と鑑賞に関する専門的な指導をはじめ、学生が教員になった時にどのように絵画(絵に表す活動)を指導するかということも学生と共に考えています。

「絵に表す」ということは、人の数だけその方法があると思います。最初から答えはありません。個に応じた指導を通して、その人にしか感じられないことを絵に表すことができれば、そんな素晴らしいことはないでしょう。

陽極酸化被膜を施したチタンプレートを使用した作品例

チタンプレートの上にアルキド樹脂絵具による手描きで表現した「うたかた-2206」と、チタンプレートの上にデジタル写真をUVインクでプリントした「凧-2015」。いずれも鑑賞者の視点の違いで光の屈折が起こり、絵の表情が異なって見えます。



「うたかた-2206」
酸化チタン、アルキド樹脂絵具(角度によって背景色の見え方が異なる)



「凧-2015」
酸化チタン、UVプリント(角度によって富士山の見え方が異なる)

研究紹介②

新野貴則

～研究テーマ～
図画工作科・美術科の
主体的な学びを実現す
る指導の方法論



新野 貴則 Niino Takanori
図画工作科・美術科における子どもの主体的な学びの実現を目指し、教育学をはじめ哲学や言語学、美学などの研究ジャンルを横断しながら教育の理念や方法に関する研究に取り組んでいる。

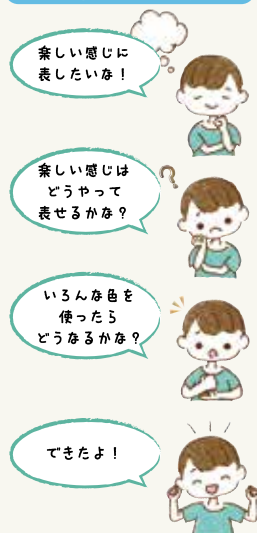
子どもの学びによりそう指導を目指して

子どもが自ら感じ、考え、試みることを通して、主体的に意味や価値をつくりだすことのできる図画工作科や美術科の授業の実現に向けて研究をしています。

現在は学習指導の方法論を展開しています。学習指導の方法論とは、授業において「どのように指導したらよいか」を考えるための理論です。理論といってもそんなに難しいものではありません。図画工作科、美術科の教科の特徴を踏まえながら、そもそも主体的な学びが実現しているとはどのようなことなのか論理的に、実践的に検討します。

そのうえで、子どもの学びを構造化し、いわゆる学習モデルをつくります。これができたら、子どもの学習モデルに対応するように指導の工夫を考えます。

学習モデルの例



指導の工夫の例(声掛けの場合)



子どもの学びをどのようにとらえるかが、ポイントだよ!

学生の研究紹介

ゼミではこんなテーマに取り組んでいます

美術科教育学ゼミ H.F. さん(甲府西高校出身)

中学校美術科の制作活動の「主題」について考えています。例えば、絵を描く授業で、あるテーマを基にイメージを広げ、言語化または想像力を働かせることで「透明感のある幸せな花」といった主題を生み出すことができます。

このような過程の中で、教師がどのように題材設定を工夫して促すことができるのか、さまざまなアプローチの仕方を研究しています。

美術理論・美術史ゼミ N.K. さん(亜細亜高校出身)

武田信玄がどのように描かれてきたかを調べています。信玄公のイメージは時代によって変化し、だんだんと現在の「あの姿」が定着していきました。肖像画、合戦図、浮世絵になんと仏像まで、たくさんの表現がなされています。

「なぜそんな表現なのか」「どうしてこの色なのか」といったところから更に詳しく調べていきたいと思っています。

